

<株式会社エフエム東京 第 458 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：令和元年 5 月 7 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（5 名）

横 森 美 奈 子 委員長 渡 辺 貞 夫 委員
秋 元 康 委員
ロバート キャンベル 委員 川 上 未 映 子 委員

◇欠席委員（1 名）

内 館 牧 子 委員

◇社側出席者（10 名）

富木田 代表取締役会長
千 代 代表取締役社長
平 専務取締役
吉 田 常務取締役
西 川 常勤監査役
村 上 常務取締役営業局長
森 田 執行役員編成制作局長 兼 編成部長
兼 株式会社グランド・ロック代表取締役社長
延 江 営業局エグゼクティブ・プランナー
若 杉 編成制作局制作部長
高 橋 番組プロデューサー

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 森田放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴（約 24 分）
『ONE MORNING』
2019 年 4 月放送のダイジェスト

＜議事内容＞

議題 1:最近の活動について

■EARTH×HEART LIVE 2019 について

TOKYO FMをはじめとする JFN ネットワーク 38 局は、1990 年から毎年 4 月 22 日のアースデーに、ステーション理念である「アースコンシャス～地球を愛し、感じるころ」を象徴するコンサートをお届けしています。2011 年の東日本大震災を機に、もうひとつのステーション理念である「ヒューマンコンシャス～生命を愛し、つながるころ～」を加え、コンサートを通じて、「かけがえのない地球」と「地球に生きるあらゆる生命」を慈しむ未来を目指そう、というメッセージを発信しています。タイトルにある「EARTH」と「HEART」は、英語のスペルを並べ替えると同じ言葉になり、「愛する地球と命」という 2 つのステーション理念を表現しています。

30 回目となる今年は、4 月 15 日（月）、TOKYODOME CITY HALL にて『EARTH × HEART LIVE 2019』を開催しました。今年のテーマは「SONG OF MOTHER EARTH～母なる地球を繋ぐ歌～」。このテーマに賛同し、出演したアーティストは、Chara、BONNIE PINK、MINMI の 3 組。母として、シンガーとして輝く女性アーティスト 3 組が、一夜限りのスペシャルライブをお届けしました。

MINMI は、環境省による、森里川海を豊かに保ち、その恵みを活かした地域づくりを進める「つなげよう、支えよう森里川海 プロジェクト」のアンバサダーもつとめていることから、プロジェクトのテーマソングでもある『MOTHER EARTH』を自身の次男とともにステージで披露しました。トークパートでは、ライブ MC の高橋万里恵、とーやま校長（『SCHOOL OF LOCK!』）が、映像とともに SDGs やマイクロプラスチック問題を分かりやすく伝え、持続可能な地球環境へのメッセージを伝えました。

なお、コンサートの収益の一部と、来場者の方々からの募金を、JFN アースコンシャス基金を通じて、災害から命を守る森を作る「鎮守の森のプロジェクト」に寄付いたしました。この模様は 4 月 22 日（月）に特別番組として全国ネットで放送され、また、ABU（アジア放送連合）、EBU（ヨーロッパ放送連合）、アメリカのカレッジステーション・ネットワークを通じて、世界に発信されました。



▲Chara



▲BONNIE PINK



▲左から BONNIE PINK、Chara、MINMI



▲MINMI と次男のあいら君



▲左から 環境省 森里川海大使アヒル隊長、高橋万里恵、とーやま校長

■2019年4月30日(月・祝) 20:00~21:55 特別番組「半蔵門の窓から」放送

TOKYO FM では、平成最後の日となる4月30日午後8時より、平成を振り返るドキュメンタリードラマ「半蔵門の窓から」を放送いたしました。31年前、ちょうど昭和から平成に変わるタイミングの平成元年に入社したTOKYO FMの女性社員を主人公に置き、番組制作部に配属された彼女の視点から「ラジオ」「女性」「改元と皇室」という3つのテーマで綴る特別番組をお届けしました。主人公の女性社員を演じたのは、女優の中嶋朋子さん。昭和から

平成に改元した当時の様々な瞬間を特集した報道ディレクターたちの証言を始め、1993年のロイヤルウェディング中継、天皇皇后両陛下が東日本大震災の被災者への思いを語られた音声など、局に残っていた貴重な音源も紹介。また、TOKYO FMの窓から皇居の「半蔵門」を見つめてきた証言者として、平成と同時に大抜擢され、のちに多くの女性パーソナリティに多大な影響を与えた「坂上みき」の葛藤と奮闘を綴り、さらに、1985年以來30年以上レギュラー番組を担当する松任谷由実も登場し、平成最後の日に、半蔵門の窓からの風景を通して、平成という時代を振り返りました。



▲中嶋朋子

▲半蔵門の窓から

■2019年5月1日(火・祝)ホリデースペシャル「レイから始まるNEW BEAT supported by SKAGEN」4ワイド番組がTOKYO FM | Ginza Sony Park Studioから公開生放送

同5月1日は、ホリデースペシャル「レイから始まるNEW BEAT supported by SKAGEN」を放送しました。午前11時30分から20時まで、「LOVE CONNECTION」、「高橋みなみの『これから、何する?』」、「シンクロのシティ」、「Skyrocket Company」の4ワイドがTOKYO FM | Ginza Sony Park Studioに初めて集結し、公開生放送を行いました。令和時代に活躍が期待される新世代のネクストブレイクアーティストや芸人をゲストに迎え、銀座から新しい音楽、未来の鼓動を発信。リスナーからは「令和時代に願うこと」をテーマにメッセージを募集し、新しい時代の幕開けを祝う特別編成となりました。公開放送会場となった銀座ソニーパークにはたくさんのリスナーが集合、また銀座を行き交う人々が足をとめて観覧するなどし、タイムテーブルやクリアファイル、ステッカー1500部が放送中に配布終了となりました。



▲タイムテーブルの配布



▲高橋みなみの「これから、何する？」

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

■5月1日の公開放送は、海外の時計メーカーが、日本の「改元」という変化のタイミングに共鳴してくれて、一緒に時を刻み祝うという形での提供となった。

○EARTH×HEART LIVE 会場の「TOKYO DOME CITY HALL」とはどこにあるものなのか。

■東京ドームシティの敷地内にある。収容人数が約 2500 名で、すり鉢型をしたホールとなっている。

○立ち上げは武道館だったので、規模が縮小したように感じる。

○続けることが大切だとは思う。中国に行くと、中国のラジオ関係の人は TOKYO FM のアースデーコンサートをみんな知っている。

■アースデーコンサートの第一回は、渡辺貞夫さんにご出演頂き、全国そして世界に向け放送した。それまでエコノミックアニマルと呼ばれていた日本人が初めて世界に向かって文化的発信をした、というメッセージが世界各地からたくさん寄せられた。

○このイベントは毎回、出演者によってテーマを設けているようだが、それによって、客層が変わって来るのか、例えば今回は「MOTHER EARTH」とお母さんをテーマにしていたようだが親子が多かったのか。

■来場する層は毎回変わる。今回は親子席を設けた。実際に親子で来ているお客様が多かった。

議題 2： 番組試聴

【番組名】 『ONE MORNING』

【放送日時】 2019年4月放送のダイジェスト

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、この4月からスタートした平日朝6:00～9:00に、TOKYO FMをはじめとするJFN38局（一部東京のみ）でお届けしている『ONE MORNING』です。4月の放送回の中から、いくつかのコーナーをダイジェストとしてまとめています。

この番組のメインパーソナリティーを務めるのは、人気声優の鈴木健一氏です。朝に聴きやすい声の持ち主であると共に、声優事務所の代表取締役も務めている彼の、表現者や生活者としての幅広い視点を活かし、これまで以上にリスナーに近い朝ワイドを目指して制作しています。

番組タイトルのONEはラジオとリスナー、1対1のONE。それを象徴して、朝6時のオープニングは、リスナーへのモーニングコールからスタートします。そして、ニュースについてリスナーからSNSで募集した意見を紹介するコーナー、ネットメディアの編集長らが登場してネット上のニュースを読み解く術を伝えるコーナーなどを放送しています。

アシスタントを務めるのは、日英ハーフのバイリンガルであるハードキャスル・エリザベス氏。この4月からフリーになったFM初登場のフレッシュなパーソナリティーで、鈴木氏と非常に息の合ったコンビを見せています。

番組のキャッチコピーは「それぞれの朝をつなぐ、ONE MORNING」。番組がスタートした日には、twitterで「新元号令和の発表」「朝ドラの放送スタート」に並んで、日本のトレンド入り。その後も頻繁に番組のハッシュタグがトレンド入りしているなど、SNSを中心に非常に大きな反響を得ています。また、これまでとは違ったリスナー層、特にF1女性の新規聴取傾向が強く表れるなどの動きが見られました。番組開始1ヶ月の現在、番組公式Twitterフォロワー数は1万6千人を超え、数字を伸ばし続けています。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○今回は朝の番組ということだが、人々は毎朝どうやってニュースなどの情報に触れるのか、例えば、私の周りでは「アレクサ、今日の天気は？」とスマートスピーカーに尋ね、家事や育児の間にスマートスピーカーから情報を得ていることが多い。AIなのでトークはあまりうまくないけれど、簡潔で的確な情報を伝えてくれる。最初は無機質で感情移入する要素はなかったけれど、クリーンな感じがしてだんだん聞き心地が良くなってくる。それを踏まえると、人々がラジオに求めるものは何だろうと思って聴いた。人が喋っているということ、コメント力だと思う。スマートスピーカーはコメントしない。逆に、コメントの内容によって、今までは当たり前だと思っていた声質やちょっとしたやり取りがノイズやマイナスに感じる不快なモノに聴こえてしまうこともある。ワンゴールというコーナーはラジオ的でいいと思った。しかし、鈴木さんはキャリアのある方だと思うが、花火職人への質問の部分が、短い間に「すごい」「素敵」などが何度も入って、それがとても軽薄な感じがした。この調子でいくのか少し不安を覚えたが、そこで女性の声やニュースが入って来た。テロ問題へのコメントは、難しいと思うが、高齢者の運転問題へのコメントは良かった。40代で感じた衰えが、この後もう一回来るのか、というのはとても素晴らしい表現だったし、問題提起もうまいと思った。それを考えると、先のワンゴールの部分が表現者としてとてももったいなく感じる。

○鈴木さんをこの番組で初めて知ったので、キャラクターはあまり知らなかったが、番組構成としてはワイドショーの王道と感じた。裏番組の J-WAVE で別所さんが10年朝の番組を担当しているが、個人的な好き嫌いは別として、聴いていると別所さんの圧がかかってくる。鈴木さんには、事前イメージがないためか圧がない。スムーズで滑らかではあるが、癖を感じない。凹凸があまりないので、自分らしさを出して行って欲しいと思う。聴いていて、深い部分に入ってくるか、聞き流すかの違いは大切。

○ハードキャスルさんがアシスタントになって進行をして、という構成が古いと感じた。動画のニュースに対して、鈴木さんがコメントをする、それも少し軽いコメント内容に感じたが、鈴木さんだけが私見を述べて、ハードキャスルさんは言わないという構図は前時代的。女性が原稿を読んで男性が判断する、という設定に若いリスナーが付いてくるのだろうか。

○高齢者の運転のニュースを専門家が解説した時、「70代になるとプライドが出てくる」という説明を鈴木さんは聞き流した。そこで、何故なんですか？と疑問をぶつけて欲しかった。この時間帯に求められる情報提供をしてほしい。

○花火職人の話は面白かったが、鈴木さんが「興味あるー！」といった時点で興味がないのが伝わってきてしまった。共感のある声の調子と、こなししている声の調子は聴いていると分かってしまうかもしれない。共感の薄さを感じた。ハードキャスルさんは声に太さがある、2人の相性自体は良いと思う。ハードキャスルさんもコメントを担っていくなど、2人の役割分担を考えてもいいのでは。

○部分的に声のトーンが少し暗い気がした。仕事している感じがしてしまった。朝は大切な時間。テレビで映像を見れば誰でもわかることをラジオで長々と語るのはいらないと思う。

○ニュースは BGM がないほうが良いと思う。

○鈴木さんは素晴らしい人材だと思う。だが、一生懸命情報番組のパーソナリティになろうとして、個性が消えてしまっている。オープニングでした団子のおもしろいなと思った。ところが、花火職人の話を聞くと、「すごい」しか言わず、とてもがっかりした。リスナーに電話をかけて、花火職人である機会、そもそも花火職人に話を訊く機会はなかなかない。どうやってなるのか、何年修行をするのか、資格があるのか、聴きたいことはいっぱい出てくるはず。花火職人ではなく、相手が運転手でも良いような質問をしているのがもったいない。ワンゴールという企画は良い企画だと思うが、これでは浅く感じてしまう。

○スリランカのテロの話は入れない方がいい。他に言い様がない。テレビでも同じだが、コメンテーターは背景を持ってないとできない。背景がないなら素人として話せばいい。団子のおもしろいのに、パーソナリティになろうとして気負ってしまって、もったいない感じがする。具体性がないとつまらない。情報番組のコメンテーターの見様見真似でやると、テロに対して「怖いですね」という当たり前のことしか言えなくなる。高齢者の運転のニュースであれば、具体的に何がどうなると危険なのか、例えばウインカーとワイパーを間違えるようになったらそろそろ危険だとか、事前にスタッフが調べておくなどしてそういうことを伝えた方がいい。違法アップロードについてなら、例えば放送されると声優にはいくら入るのか、その上で、違法コピーされるとこの金額が減

って厳しいんです、と言われた方が伝わる。ブラックホールの表現はとても良かった。あの表現をもっと出せばいいのに、と思った。

○全く先入観はなく聴いた。前の番組とはずいぶんトーンが違うと感じた。自分は朝に弱く、朝のトーンが低いので、番組のテンションが高いとついていけないと思う。

○個性を感じない、無個性な番組だった。鈴木さんは声優として、大変人気のある方だと聞いた。F1層のリスナーが増えたのも分かりやすい。独特のコアなファン層がいるのだと思う。ファンは何を話そうが、鈴木さんの声が聴ければいいのだと思う。番組の意図としてはそういう層の数字を狙ったのもあったと思うが、その結果は出ているのだろう。広く一般向けはもう難しい時代。しっかりニッチな層を捕まえていくということは大切。その中で、鈴木さんしか語れないことを伝えてほしいと思う。違法コピーのニュースについては、もっと鈴木さんにしか語れないことがあったのではないか。一般的な誰でもできるコメントではなく、鈴木さんならではの表現が放送の中ではできてきているか？

■リスナーからの意見を広く寄せてもらっているので、それに対するコメントは出ていると思う。

○声優事務所の代表も務められているが、鈴木さんにしか話せないような、声優の裏話は番組で聴けたりするのか。

■声優としての回答も、経営者としての回答もある。

■番組側の演出として、毎朝のことなので、あまり声優ばかりを強く打ち出さないよう心掛けていたこともある。

○それだと、キャスティングの意味もなくなってしまう。番組内でショートコーナーのラジオドラマを放送したら人気が出ると思う。そういう演出があった後にニュースを伝えたら面白い。

○せっかく声優という専門があるのにそれを使わないのはもったいない。例えば、声優は自分が担当しているアニメの役を、ラジオで勝手にやってはいけないなどの縛りがある。声にも著作権があるなど、そういう裏側を伝えたら、鈴木さんにしかできない話で、聴く人はとても面白いと思う。せっかく個性があるのに、普通を演じているようでもったいない。フリートークがもっとできる人はず。

○今後、いい形で続いていくことを期待している。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「Ready Saturday Go」

5月25日(土) 7:00～7:20 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp/>

7.その他

次回の放送番組審議会を、6月4日(火)に開催することを決めた。